

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 26日は、高気圧が日本の東に移動する。
- 26日から27日にかけて、黄海付近の低気圧が沿海州付近を北東へ進む。前線が日本付近を通過する。
- 28日から29日にかけて、低気圧がオホーツク海を北へ進む。日本海は気圧の谷となり、30日は低気圧が北日本に進む。また、大陸の高気圧が東シナ海へ張り出す。

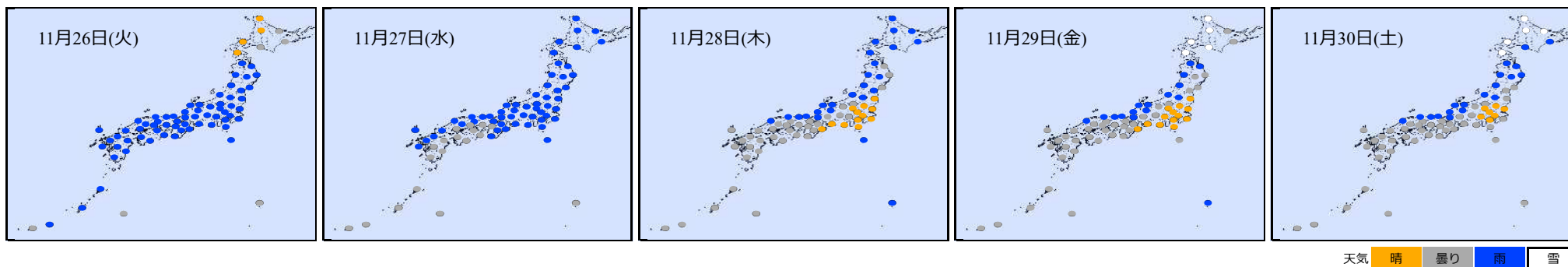
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 26日から27日にかけて、日本付近を通過する前線の影響で、北日本を中心に荒れた天気となる。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

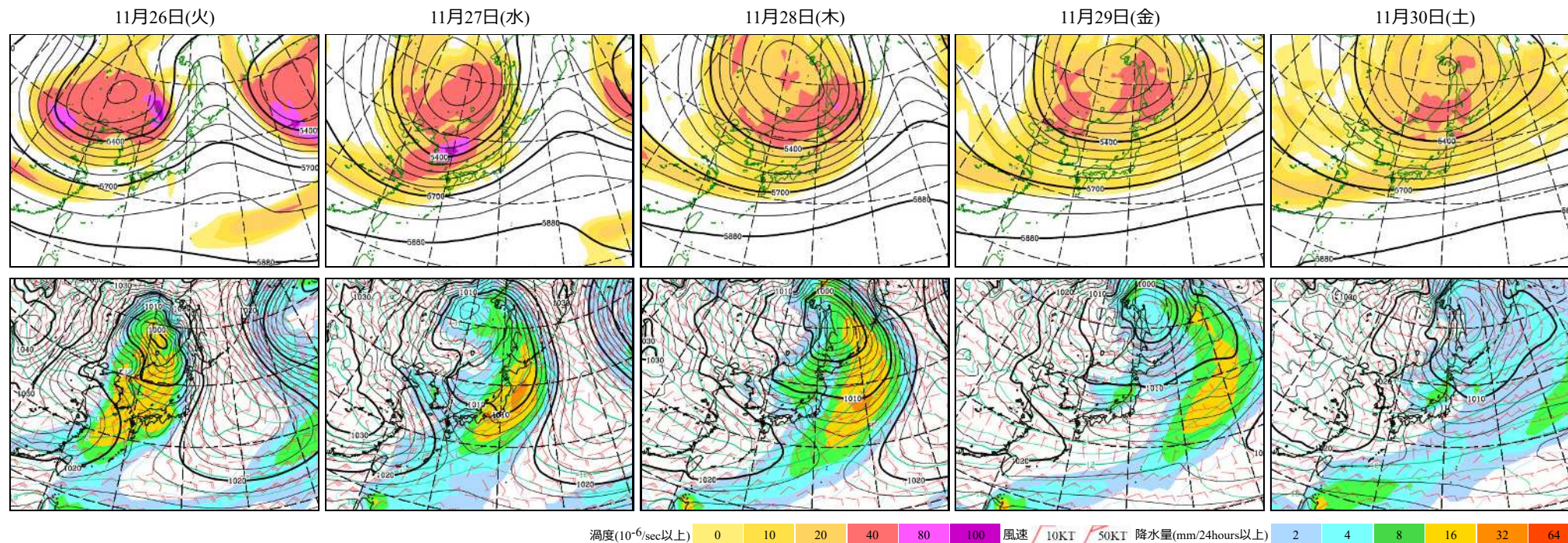
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

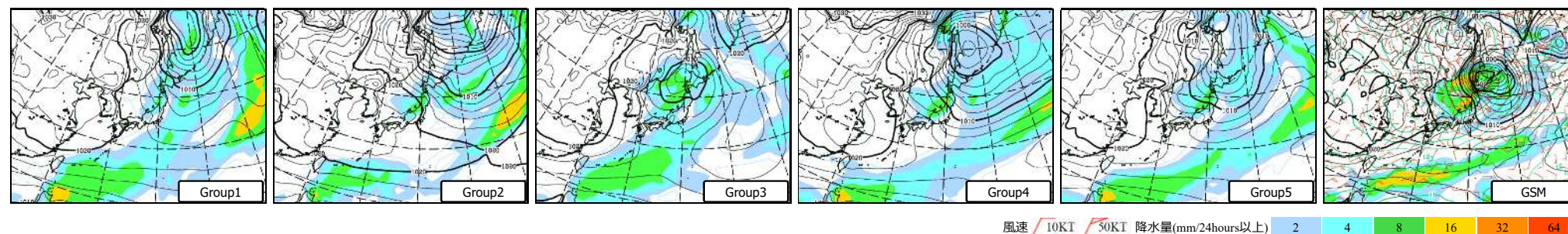


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、晴れる所もあるが、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、26日から27日にかけて雨が降る。28日から30日は晴れる所が多い。
- 西日本太平洋側と沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、26日は雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月30日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、27日の朝鮮半島付近のトラフが深くなり、28日以降は中国東北区の寒冷渦の動きが遅くなった。地上の気圧配置の予想は、28日頃までは大きな初期値変わりはない。29日以降はオホーツク海の低気圧の動きが遅くなった。
- 各モデルともに、27日以降は中国東北区の寒冷渦や渦を回るトラフの予想に初期値変わりが見られるが、昨日資料よりモデル間の差は小さくなった。
- 30日は、GSM、ECM、NCEPは北海道付近または日本海に低気圧を予想する。ENSには同様の予想をするメンバーもあるが、オホーツク海で低気圧が発達する予想をするメンバーも多く含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。